

22番 東 秀 哉 議 員

1 ヤングケアラーの救済について

- (1) 中高生を対象としたヤングケアラーに関する全国実態調査が厚生労働省と文部科学省により行われ、中学生で約17人に一人、高校生では24人に一人という実態が明らかになった。本市でも実態調査を急ぐべきと思うが、どうか。
- (2) 実態把握とその対応に当たっては教育と福祉の連携が不可欠である。その在り方についてどう考え、どう連携するのか。
- (3) ヤングケアラー救済に向けて行政の関わり方についてどのように考えるか。

2 指定難病並びに特定疾患の患者及びその家族の支援について

- (1) 本市に於ける指定難病患者数と指定難病の種類を示されたい。  
また、本地域での難病傾向があれば、示されたい。
- (2) 指定難病患者及びその家族の生活、福祉、就労の相談について関係機関とどう連携し、対応しているか。
- (3) 指定難病に至らない特定疾患の患者及びその家族の生活、福祉、就労相談については、どうか。
- (4) 指定難病や特定疾患、これに起因する生活困窮や福祉の支援制度・体制、就労支援制度・体制はどのようになっているか。
- (5) 特定疾患患者及びその家族に対する本市独自の支援策は考えられないか。

3 デジタル推進課について

- (1) デジタル化の推進はもとより、業務改善、進行管理を一体的に管理する体制を構築するために旧情報行政課の一部を再編し、新たにデジタル推進課が設置された。再編の詳細について示されたい。

22番 東 秀 哉 議 員

- (2) 本市のデジタル化を推進するために令和3年度の早い時期でのデジタル専門人材の登用に向けて、民間企業と調整中とのことであるが、その見通しはどうか。また、どのようなことをこの人材に期待しているか。
- (3) デジタル化を推進する上で、課内の再編についても新たな人材に意見を求めているかどうか。

4 「拾い箱」設置について

- (1) 4年前に与論町で始まった「拾い箱」が全国的広がりを見せ、成果を挙げている。本市でも設置すべきと思うが、どうか。
- (2) 特定の「誰か」ではなく、「みんな」で、「1人の100歩より100人の一歩」、人が来れば来るほどきれいになる海辺等、環境保全意識を醸成するためにも有効であり、運動を強く広く展開すべきと考えるが、どうか。